

言語教育履修生のための ポートフォリオ

大学	
学部	
学科（コース）	
学籍番号	
氏名	

目 次

言語教育履修生のためのポートフォリオについて.....	2
1. 目的	2
2. 利用期間	2
3. 構成	2
4. 利用方法	3
5. 教職担当の先生方へ	3
自分自身について.....	5
1. 過去の英語学習経験	5
2. 教職課程に対する期待	5
3. 教育実習に臨む前の期待と不安	6
4. 教師の資質能力	6
振り返りのための授業力自己評価項目リスト.....	8
I 教育環境	8
A.教育課程/8、B.目標とニーズ/8、C.語学教師の役割/8	
D.組織の設備と制約/9	
II 教授法	10
A.スピーキング活動/10、B.ライティング活動/11、C.リスニング活動/11	
D.リーディング活動/12、E.文法/13、F.語彙/13、G.文化/14	
III 教授資料の入手先	14
IV 授業計画	15
A.学習目標の設定/15、B.授業内容/15、C.授業展開/16	
V 授業実践	17
A.レッスン・プランの使用/17、B.内容/17、C.生徒とのインタラクション/17、	
D.授業運営/18、E.教室での言語/18	
VI 自立学習	18
A.学習者の自律/18、B.宿題/19、C.バーチャル学習環境/19	
VII 評価	19
A.測定具の考案/19、B.評価/20、C.言語運用/20、D.国際理解/20、	
E.誤答分析/20	
個人学習・実践記録表.....	21
① 学習・実践の記録	21
② 継続的な学習・実践の記録	24
Glossary	27

言語教育履修生のためのポートフォリオについて

1. 目的

言語教育履修生のためのポートフォリオは、履修学生が、教職課程や実習先で学んだことを継続的に記録し、自分の成長に役立てるためのものです。成長を記録し振り返ること、自己の長所や短所に気づき、教職に対する気づきや学びが促されます。

2. 利用期間

本ポートフォリオを受け取ってから、教育実習を終える4年次の秋まで利用してください。

3. 構成

言語教育履修生のためのポートフォリオは次の3つの内容で構成されています。

(1) 自分自身について

本ポートフォリオを受け取ってから教育実習前までに、それまでの英語学習経験、教職課程や教育実習に対する期待や不安を書いてください。また、英語教師として大切な資質能力について考えてみましょう。

(2) 振り返りのための授業力自己評価項目リスト（Can-do 形式による）

このポートフォリオを使って、自己の教職課程での学習や実習での教育実践を振り返ってください。ポートフォリオは、全7分野（Ⅰ 教育環境、Ⅱ 教授法、Ⅲ 教授資料の入手先、Ⅳ 授業計画、Ⅴ 授業実践、Ⅵ 自立学習、Ⅶ 評価）、計100項目で構成されています。振り返りは、少なくとも実習終了後の事後指導までに3回行います。振り返る時期は、例えばポートフォリオを受け取った時、教育実習前（例：3年次の学年末）、教育実習後（例：4年次の秋）です。その後、「教育実習演習」終了時や教職に就いてからも授業力を自己評価するために活用することができます。

本ポートフォリオの最後に「Glossary」をつけました。授業力自己評価項目中の用語を理解するために参照してください。

授業力自己評価の記入方法

- ① 授業力自己評価項目リストの冒頭にある表に、自己評価を記入した日と使用した色を書き入れます。

表の記入例（記入日：年／月／日）

自己評価記入日	2012/9/4	2013/4/15	2013/7/10			
使用した色	黄	青	緑			

②各項目の下には、細長い矢印ブロックがあります。各項目に対して自らの到達度に対する意識を5段階（5-できる、4-まあまあできる、3-どちらともいえない、2-あまりよくできない、1-できない）で判断して下さい。5段階の中で該当する箇所を塗りつぶしてもよいし、

左寄り、中央、あるいは右寄りにしてもよいでしょう。記入例のように、以前の自己評価よりも下がる場合もあります。また、学習や経験をしていない項目は無理に回答しなくても結構です。

実施日の色別による自己評価記入例



(3) 個人学習・実践記録表（英語の学習、英語の授業実践に関わるもの）

本ポートフォリオを受け取ってから教育実習終了までの期間、以下の 2 つの分野について記録してください。授業力自己評価項目について、自分の判断の根拠や、判断が適切であるか否かを示すことができます。

① 学習・実践の記録

実施日、学習・実践事項、学習・実践内容の概要及びコメント

② 継続的な学習・実践の記録

①の他に継続的な学習・実践がある場合のみ記入

4. 利用方法

① 記録する

- ・ 教職課程履修中に、必要に応じて「個人学習・実践記録表」に自己の学習や教育実践を記録しておきましょう。

② 振り返る

- ・ 教職課程履修中に、少なくとも 3 回は授業力自己評価項目で自分自身を振り返り、自己の課題について考える習慣をつけましょう。
- ・ 教職履修課程中に、自己分析の資料として活用しましょう。
- ・ 教職に就いた後でも、自分の成長のための振り返りの道具として、このポートフォリオを利用し続けましょう。

③ 相談する

- ・ 教職担当や教育実習先の先生にポートフォリオを見てもらい、適切な助言を受ける機会を作りましょう。
- ・ 教職のあり方や授業実践などについて、学生同士で話し合う機会を持ち、その際にポートフォリオを活用しましょう。

5. 教職担当の先生方へ

本ポートフォリオは全てを利用する必要はありません。各大学のカリキュラムに合わせて、利用できる箇所を柔軟にお考えください。

(1)本ポートフォリオの利用目的

本ポートフォリオの利用目的は主に以下の5点です。

- ・ 英語授業力の構成要素を明らかにする
- ・ 英語授業力を支える知識・技術を振り返ることを促す
- ・ 履修生の議論を促す
- ・ 履修生同士の自己評価を促す
- ・ 成長を記録する手段を提供する

(2) 利用例

①

利用場面：教職科目における講義

利用箇所：自分自身についての「過去の学習経験」

利用方法：授業で履修生同士の議論のテーマとして利用し、なぜある教え方は良かったのか、また良くなかったのか振り返り分析する。

②

利用場面：教職科目における模擬授業後

利用箇所：振り返りのための授業力自己評価項目リストの「授業計画」と「授業実践」

利用方法：模擬授業後、履修生同士で can-do 記述文の分析を行ったり、実践を支える理論について議論をする。

③

利用場面：教育実習中

利用箇所：振り返りのための授業力自己評価項目リストの「授業計画」

利用方法：教壇実習前に、can-do 記述文を参考に、授業のねらいや目的を設定する。

④

利用場面：教育実習中

利用箇所：振り返りのための授業力自己評価項目リストの「授業実践」

利用方法：教壇実習後、can-do 記述文を基に、履修生が指導教員と授業を振り返る。

⑤

利用場面：教職課程履修開始から終了時

利用箇所：個人学習・実践記録表

利用方法：履修生の成長を示す証拠資料の一部として利用する。

⑥

利用場面：教職課程履修開始から終了時

利用箇所：振り返りのための授業力自己評価項目リスト

利用方法：振り返りのための授業力自己評価項目リストにより、履修生の英語授業力に対する認識を確認することで、大学の英語教職課程プログラムの利点と問題点を明らかにする。

自分自身について

記入日： 年 月 日（ 曜日）

1. 過去の英語学習経験

これまで英語を教わってきたことを振り返り、良かった、あるいは良くなかったと思う教え方や授業内容等を自由に記述してください。

a)良かった内容

b)良くなかった内容

2. 教職課程に対する期待

教職課程（教科教育法の授業や教育実習など）を通して何ができるようになりたいですか。

3. 教育実習に臨む前の期待と不安

a) 教育実習の指導で楽しみにしていることは何ですか。

b) 教育実習の指導で不安に思っていることは何ですか。

4. 教師の資質能力

4.1 英語教師として大切な資質能力は何だと思いますか。次の例のあとに続けて、書き加えてみましょう。また、それぞれの項目はどれぐらい重要ですか。重要度を5段階（5-重要である、4-まあまあ重要である、3-どちらともいえない、2-あまり重要でない、1-重要ではない）で判断してください。

	項 目	重要度				
1	他の教員と協力することができる	5	4	3	2	1
2	自分の職務を理解し遂行することができる	5	4	3	2	1
3	文法を説明することができる	5	4	3	2	1
4		5	4	3	2	1
5		5	4	3	2	1
6		5	4	3	2	1
7		5	4	3	2	1
8		5	4	3	2	1
9		5	4	3	2	1
10		5	4	3	2	1

4.2 以下の例を参考にして、履修者同士で、各項目について話し合ってみましょう。

①例えば「文法を説明することができる」に対して、あなたが「5－重要である」と判断した場合、どうして重要だと考えるのかペアあるいはグループのメンバーに具体例を出しながら説明をしてみましょう。

②次に「文法を説明することができる」とはどのような能力なのか、ペアまたはグループで話し合いましょう（例：教員が文法解説を日本語あるいは英語でできる、生徒に用例を与え分析させることができるなど）。

～振り返りの重要性～

「言語教育履修生のためのポートフォリオ」では、ただ質問に回答するだけではなく、「4.教師の資質能力」のように自らの考えや行動を振り返ることが大切です。

次の「振り返りのためのチェックリスト」においても、与えられた質問に対して、それぞれの文の意味をよく考え、そのうえで、教職課程で学習した内容や模擬授業を自ら振り返ることで自律した教員へ成長していくことを目指してください。そして、教職担当や教育実習先の先生あるいは履修生同士でそれぞれの考えを共有し、話し合うこと（振り返ること）で教授法などについて多角的に考える機会を作ってください。

皆さんが自律した教員へ成長するためには是非このポートフォリオを役立てていただきたいと思います。

振り返りのための授業力自己評価項目リスト

各項目に対して自らの到達度に対する意識を5段階（5-できる、4-まあまあできる、3-どちらともいえない、2-あまりよくできない、1-できない）で判断して下さい。

自己評価記入日						
使用した色						

I 教育環境

A. 教育課程

1. 学習指導要領に記述された内容を理解できる。

1	2	3	4	5	
---	---	---	---	---	--

B. 目標とニーズ

2. 外国語を学習することの意味を理解できる。

1	2	3	4	5	
---	---	---	---	---	--

3. 学習指導要領と生徒のニーズに基づいて到達目標を考慮できる。

1	2	3	4	5	
---	---	---	---	---	--

4. 生徒が外国語を学習する動機を考慮できる。

1	2	3	4	5	
---	---	---	---	---	--

5. 生徒の知的関心を考慮できる。

1	2	3	4	5	
---	---	---	---	---	--

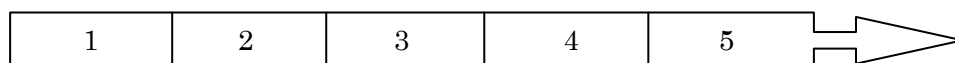
6. 生徒の達成感を考慮できる。

1	2	3	4	5	
---	---	---	---	---	--

C. 語学教師の役割

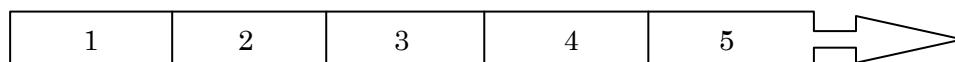
7. 生徒と保護者に対して英語学習の意味や利点を説明できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



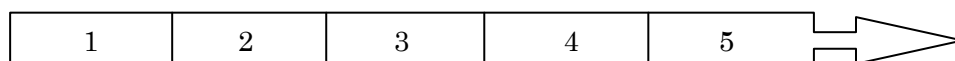
8. 生徒の日本語の知識に配慮し、英語を指導する際にそれを活用できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



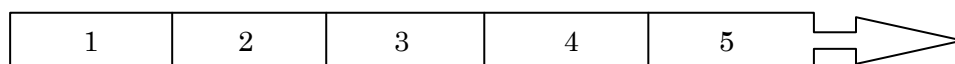
9. 理論を理解して、自分の授業を批判的に評価できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



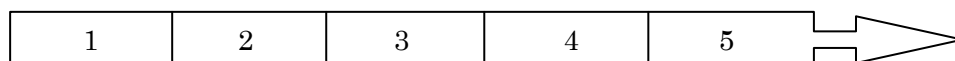
10. 生徒からのフィードバックや学習の成果に基づいて、自分の授業を批判的に評価し、状況に合わせて変えることができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



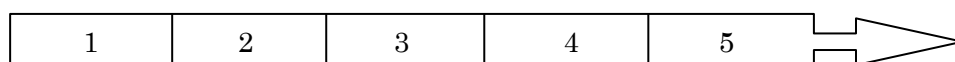
11. 他の実習生や指導教諭等からのフィードバックを受け入れ、自分の授業に取り入れることができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



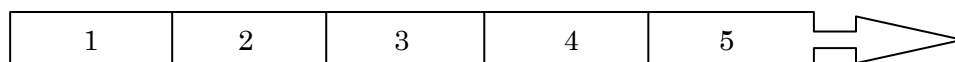
12. 他の実習生の授業を観察し、建設的にフィードバックできる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



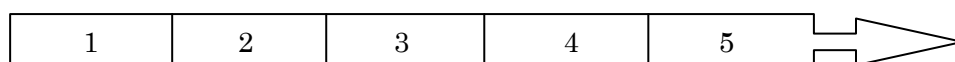
13. 計画・実行・反省の手順で、生徒や授業に関する課題に気づくことができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



14. 授業や学習に関連した情報を収集できる。

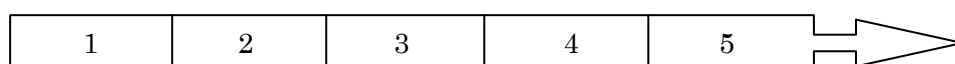
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



D. 組織の設備と制約

15. 実習校における設備や教育機器を、授業などで状況に応じて利用できる。

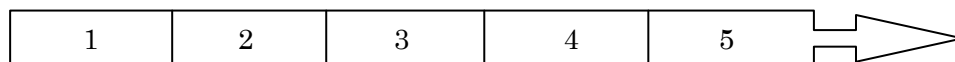
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



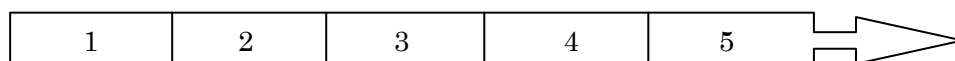
Ⅱ 教授法

A. スピーキング活動

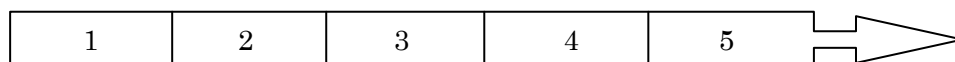
16. 話しやすい雰囲気の中で具体的な言語使用場面を設定することにより、活動に積極的に参加させる指導ができる。



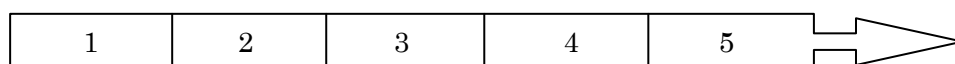
17. 自分の意見、身の回りのことおよび自国の文化等について適切に伝える力を育成するための活動を指導できる。



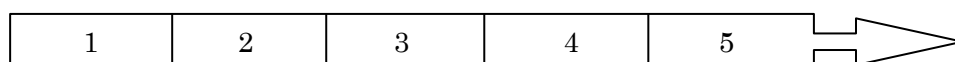
18. 発表や討論などができる力を育成するための活動を指導できる。



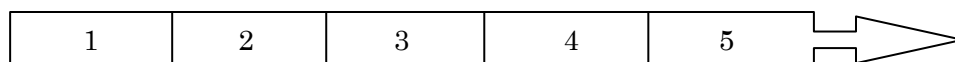
19. スピーキング活動を促すような視覚補助教材、印刷教材、オーディオテープで多様な教材に精通している。



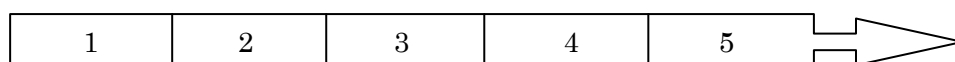
20. つなぎ言葉、あいづち等を効果的に使って、相手とインタラクションができる力を育成するための活動を指導できる。



21. 強勢、リズム、イントネーション等を身につけさせるような音声訓練を指導できる。



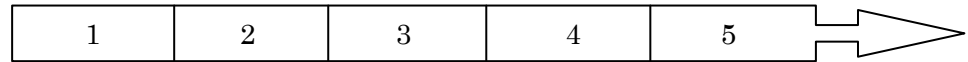
22. 語彙や文法知識等を用いて正確に話す力を育成するための音声指導ができる。



B. ライティング活動

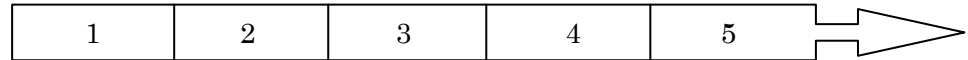
23. 生徒が持っているライティング能力を伸ばすために、言語の使用場面と言語の働きに応じた指導ができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



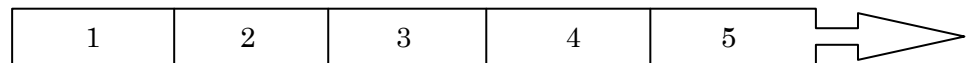
24. 生徒がEメール等のやりとりを行う手助けとなる活動を評価・選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



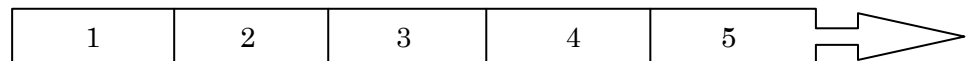
25. 生徒がライティングの課題のために情報を収集し共有することを手助けできる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



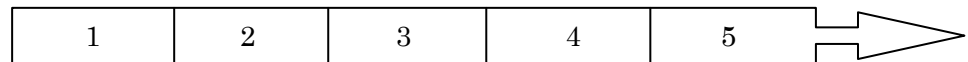
26. 生徒がマインドマップやアウトラインを用いて文章を書くことの手助けができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



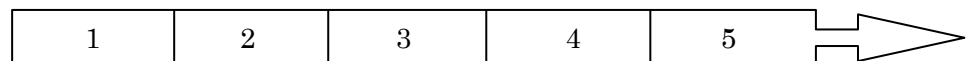
27. 生徒がまとまりのあるパラグラフやエッセイを書くことができるように指導できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



28. 生徒が学習した綴り、語彙や文法などの定着に役立つライティング活動を評価・選択できる。

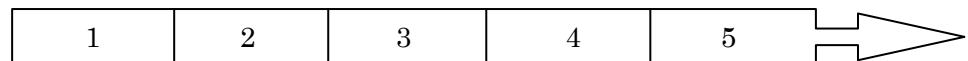
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



C. リスニング活動

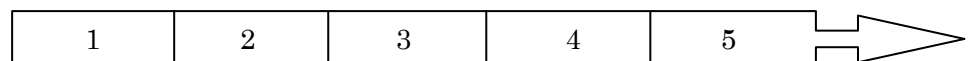
29. 生徒のニーズ、興味、到達度に適した教材を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



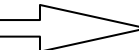
30. 生徒がリスニング教材に関心が向くよう、聞く前の活動を計画できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



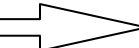
31. 生徒がリスニング教材について持っている関連知識を利用し、効果的にリスニングができるよう促すことができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



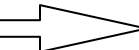
32. リスニング・ストラテジー（要旨や特定の情報をつかむなど）の練習と向上のために、様々な学習活動を作成・選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



33. 生徒が英語の話し言葉の特徴に気づかせるような学習活動を作成・選択できる。

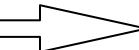
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



D. リーディング活動

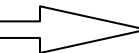
34. 生徒のニーズや興味、到達度に合った教材を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



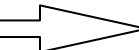
35. 生徒が教材に関心が向くよう、読む前の活動を計画できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



36. 生徒が文章を読む際に、持っている関連知識を使うよう促すことができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



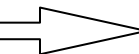
37. 様々な文章の読み方（例：音読、黙読、グループリーディングなど）を適切に行なわせることができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



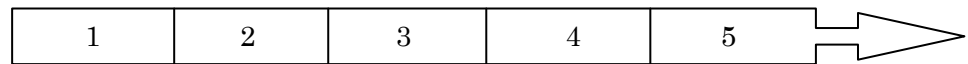
38. 読む目的（例：スキミング、スキヤニングなど）に合わせ、リーディング・ストラテジーの練習と向上のために様々な言語活動を展開できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



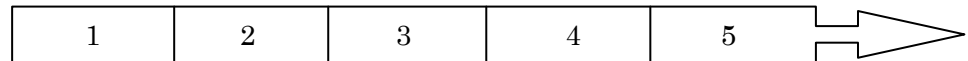
39. リーディングとその他のスキルを関連づけるような様々な言語活動を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



40. 多読指導において、生徒のニーズや興味、到達度に合った本を推薦できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



E. 文法

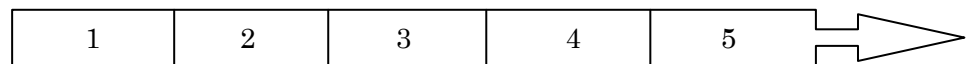
41. 生徒に適切な文法書や辞書を提示し、具体的にそれらを引用して説明を行え、またそれらを生徒が使えるように指導できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



42. 文法は、コミュニケーションを支えるものであるとの認識を持ち、使用場面を提示して、言語活動と関連づけて指導できる。

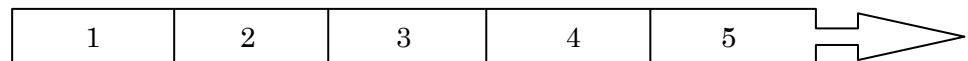
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



F. 語彙

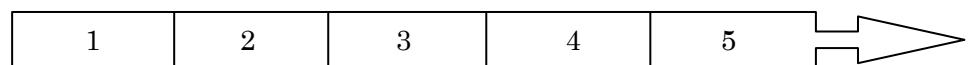
43. 文脈の中で単語を学習させ、定着させるための言語活動を行うことができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



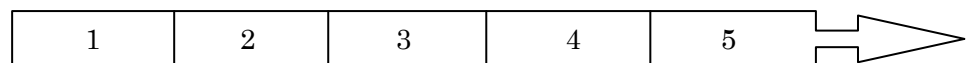
44. ロングマンの辞書の語彙定義に使われる基本2000語を理解し、それらを使って英語で授業ができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



45. 使用頻度の高い単語・低い単語、あるいは受容語彙・発信語彙のいずれであるかを判断し、それらを指導できる。

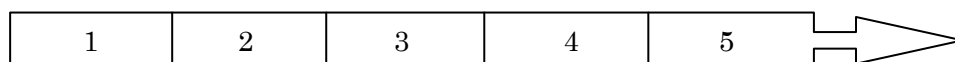
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



G. 文化

46. 英語学習をとおして、自分たちの文化と英語圏の文化に関する興味・関心を引き起こすような活動を指導できる。

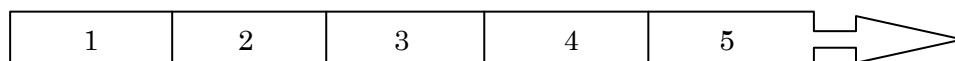
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



Ⅲ 教授資料の入手先

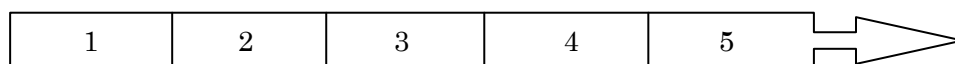
47. 生徒の年齢、興味、英語力に適した教科書や教材を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



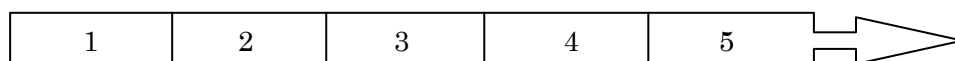
48. 生徒の英語力に適した文章や言語活動を教科書から選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



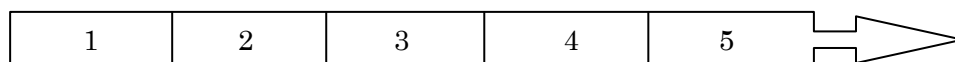
49. 教科書以外の素材（文学作品、新聞、ウェブサイトなど）から、生徒のニーズに応じた聴解と読解の教材を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



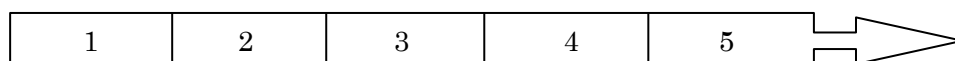
50. 教科書付属の教師用指導書や補助教材にあるアイデア、指導案、教材を利用できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



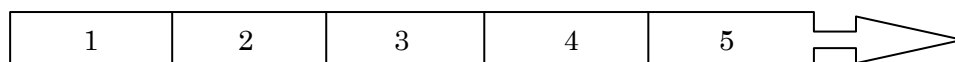
51. 生徒に適切な教材や活動を自ら考案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



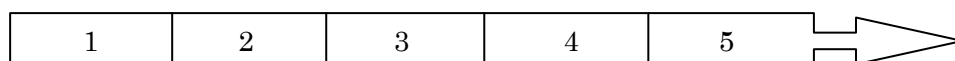
52. 生徒に役に立つ辞書や参考書を推薦できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



53. 情報検索のためにネットを使えるように生徒を指導できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

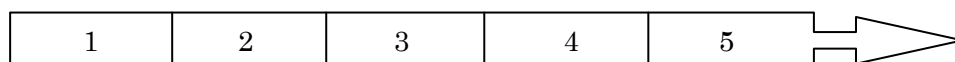


IV 授業計画

A. 学習目標の設定

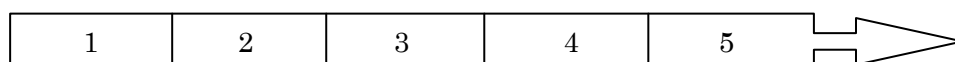
54. 生徒のニーズを考慮し、学習指導要領の内容に沿った学習目標を立てることができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



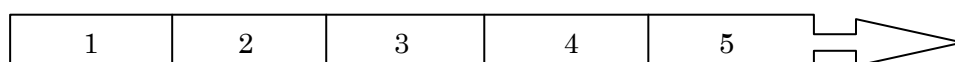
55. 年間の指導計画に即して、授業ごとの目標を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



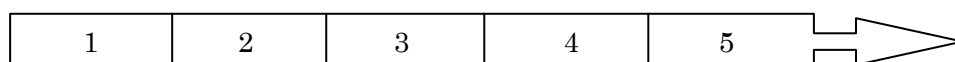
56. 生徒の意欲を高める学習目標を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



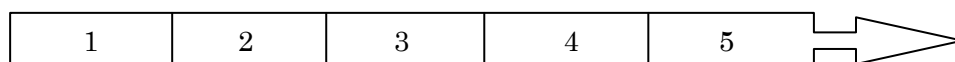
57. 生徒の能力やニーズに配慮した目標を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



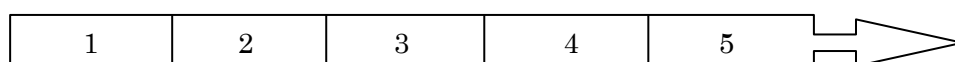
58. 年間の指導計画に基づいて、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能それぞれに観点別評価の目標を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



59. 生徒に自分の学習を振り返り、やる気を起こさせるような目標を設定できる。

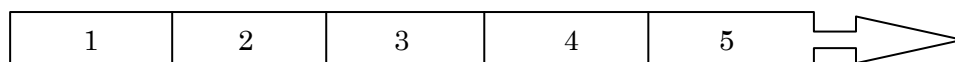
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



B. 授業内容

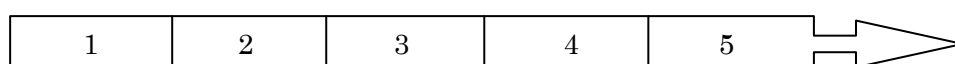
60. 年間の授業計画に基づいて、一貫しかつ多様な指導計画を立案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



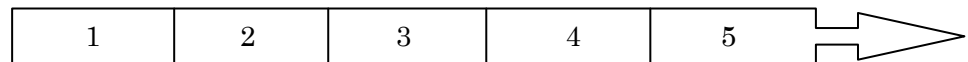
61. 「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4技能が総合的に取り込まれた指導計画を立案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



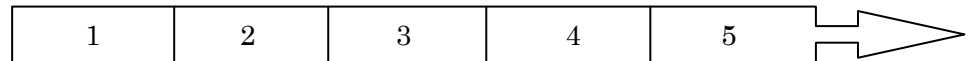
62. 言語や文化に関心を持たせる指導計画を立案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



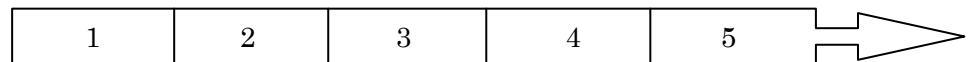
63. 文法学習や語彙学習をコミュニケーション活動に統合させた指導計画を立案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



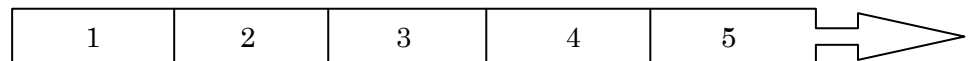
64. 目標とする学習活動に必要な時間を把握して、指導計画を立案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



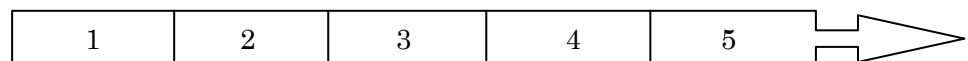
65. 生徒がこれまでに学習した知識を活用した活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



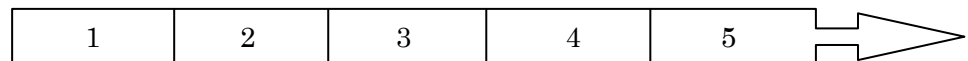
66. 生徒のやる気や興味を引き出すような学習活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



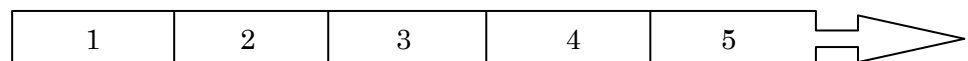
67. 生徒の学習方法に応じた学習活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



68. 生徒の反応や意見を、授業計画に反映できる。

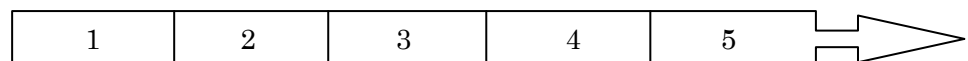
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



C. 授業展開

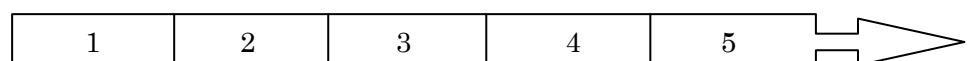
69. 学習目標に沿った授業形式（対面式、個別、ペア、グループなど）を選び、指導計画を立案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

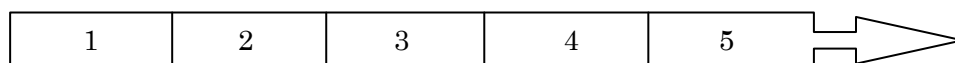


70. 生徒の発表や生徒同士のやりとりを促す活動計画を立案できる。

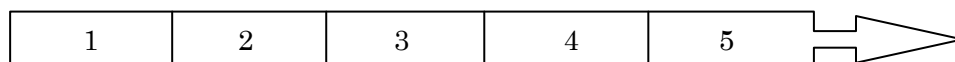
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



71. 英語を使うタイミングや方法を考慮して、授業計画を立案できる。



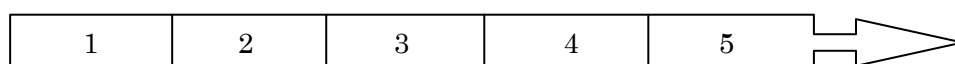
72. 指導教員やALTとのチームティーチングの授業計画を立案できる。



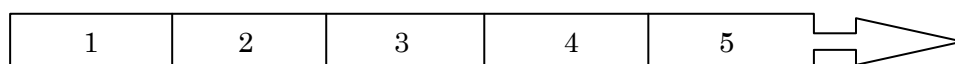
V 授業実践

A. レッスン・プランの使用

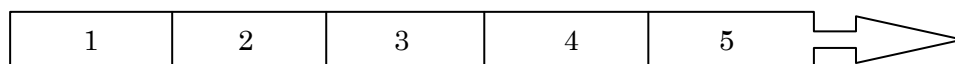
73. 生徒の関心を引きつける方法で授業を開始できる。



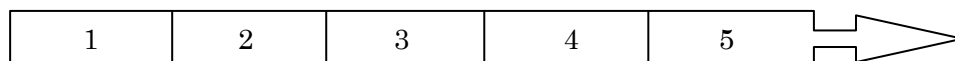
74. 指導案に基づいて柔軟に授業を行い、授業の進行とともに生徒の興味に対応できる。



75. 予想できない状況が生じたとき、指導案を調整して対処できる。

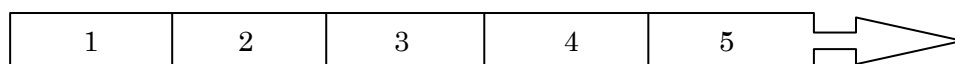


76. 生徒の集中力を考慮し、授業活動の種類と時間を適切に配分できる。



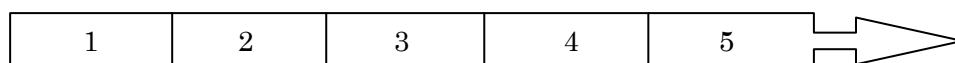
B. 内容

77. 授業内容を、生徒の持っている知識や身近な出来事や文化などに関連づけて教えられる。



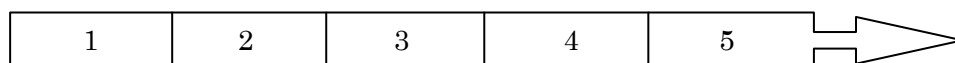
C. 生徒とのインタラクション

78. 授業中、生徒の注意をそらすことなく授業に集中させることができる。



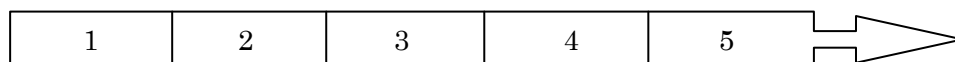
79. 生徒中心の活動や生徒間のインタラクションを支援できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



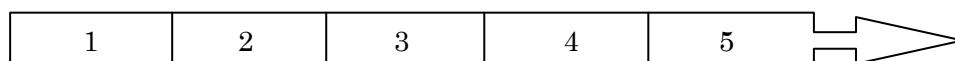
80. 生徒の様々な学習スタイルに対応できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



81. 生徒が学習ストラテジーを適切に使えるように支援できる。

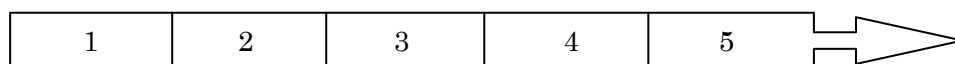
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



D. 授業運営

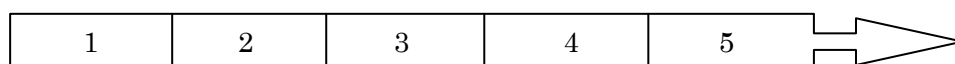
82. 個人学習、ペアワーク、グループワーク、クラス全体などの活動形態を提供できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



83. フラッシュカード・図表・絵などの作成や視聴覚教材を活用できる。

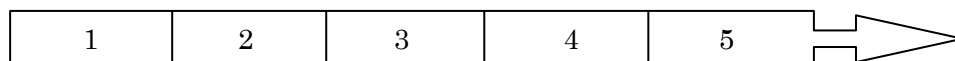
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



E. 教室での言語

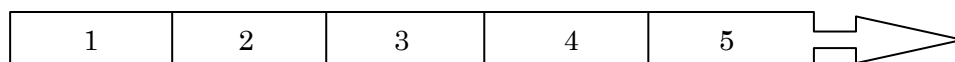
84. 英語を使って授業を展開するが、必要に応じて日本語を効果的に使用できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



85. 生徒が授業活動において英語を使うように促すことができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

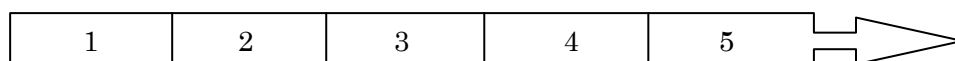


VI 自立学習

A. 学習者の自律

86. 生徒が自分で目標や学習計画を立てる手助けや指導ができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



87. 生徒が各自のニーズや興味に合ったタスクや活動を選択する手助けができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



88. 生徒が自分の学習過程や学習成果を自己評価できるように支援できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



B. 宿題

89. 生徒にとって最も適した宿題を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



90. 生徒が自主的に宿題を進めるのに必要な支援を行ない、学習時間の管理の手助けができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



91. 妥当で明確な基準に基づいて宿題を評価できる。

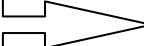
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



C. バーチャル学習環境

92. インターネットなどの ICT を活用でき、生徒にも適切に指導できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



VII 評価

A. 測定法の考案

93. 授業の目的に応じて、筆記試験、実技試験などの評価方法を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



94. 生徒の授業への参加や活動状況を評価する方法を考慮できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



B. 評価

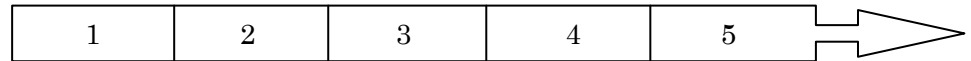
95. 生徒の英語運用力が向上するように、本人の得意・不得意分野を指摘できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



96. 学習者や保護者などにわかりやすい形式で生徒のできばえや進歩を記述できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



97. 生徒の学習の伸びを信頼性のある適切な方法で評価し、その結果を図表やグラフなどわかりやすく表示できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



C. 言語運用

98. 話したり書いたりする能力を適切に評価できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



D. 国際理解

99. 日本の文化と英語圏の文化を比べ、その相違への生徒の気づきを評価できる。

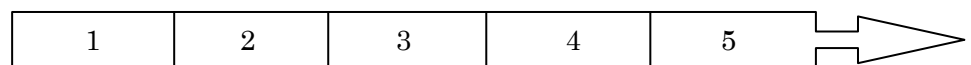
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



E. 誤答分析

100. 生徒の誤りを分析し、建設的にフィードバックできる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



個人学習・実践記録表

①学習・実践の記録

※英語の学習、英語の授業実践について記録してください（例：模擬授業、授業観察、研究会の参加、英語の資格試験受験など）。資料の有無も記入してください（例：模擬授業指導案、授業の振り返り日誌、授業観察の記録、実習日誌、英語の資格試験結果など）。資料の実物を添付する必要はありません。

実施日	学習・実践事項	概要	コメント	資料の有無
(例1) 2012年 7月25日	TOEICの受験	TOEICの公開テストを受験。	前回 550、今回 610。目標どおり、リスニング 50 以上アップ。	○
(例2) 2012年 9月25日	第1回模擬授業	英語科教育法の授業で、2人1組で20分間の模擬授業を実施。対象：中1。各担当10分。	準備不足のため、時間内に指導案の内容を終えることができなかった。次回は、事前に時間を計って、十分に準備をして臨みたい。	○

--	--	--	--	--

--	--	--	--	--

②継続的な学習・実践の記録

※①に該当しない継続的な英語の学習、英語の授業実践について記録してください（例：家庭教師、塾講師、課外補習ボランティア、学校行事補助、海外研修・留学など）。

実施 期間	学習・実践事項	概要	コメント
(例3) 2012年 4月1日 ~2013年 3月31日	英語の家庭教師 (中学2年生1名)	週1回2時間、中学2年生 を対象に、英語の家庭教師 をした。前半1時間は、単 語テスト、教科書の解説、 音読などにあて、後半2時 間は問題演習と解説にあ てた。	最初は、なかなか上手に教 えることができなかった が、生徒の得意な学習方法 が分かり、生徒に合った教 え方をすることができる ようになった。

--	--	--	--

--	--	--	--

Glossary

ALT (Assistant Language Teacher) The Japan Exchange and Teaching Program (JET Program)によって雇用される外国語母語話者

disfluency 発話中に言いよどむ現象であるが、気づかれないような軽度の場合から理解不能に至るまで幅があり、ほとんど誰でも時と場合により **disfluency** になることがある。

Filler words (uhm, er, like など) の使い過ぎも一種の **disfluency** である。

E-pal 電子メールによる文通友達

recast 不完全な発話を受けて、親あるいは教師が文法的に正しく言い直すことで、**corrective recast** あるいは **implicit negative feedback** ともいう。語句を添えて文章を完成させたりする **expansion** も広義の **recast** に含める場合がある。

show & tell 生徒に級友を前にして、持参したものを見せて英語で説明させる指導技術。

small talk 英語の **small talk** は、日本語で言えば雑談、ゴシップ、よもやま話に相当するが、英語圏では円滑な人間関係の演出や日常の社会活動を効果的に行うためになくてはならないもので、社会言語学の基本的な分析単位である **speech event** の一種である。

TPR (Total Physical Response) 教師の与える指示に学習者が全身で反応することを求めるもので、言語活動と全身動作を連合させることが、その表現の定着に役立つという考え方。

YouTube 2005 年、米国カリフォルニアに設立された動画用ポータルサイト。サービス開始当初は無制限にアップロードできたが、現在は著作権問題やサーバーの負担を考慮して 15 分以内の動画しかアップロードできないことになっている。

アイコンタクト (eye contact) 教育学・心理学の視点から言えば、単なる物理的な視線接触を越えて、親と子、教師と生徒、人と人などの二者間で気持ちが通じ合うことの確かな指標となる。

ウィキペディア ウィキペディア(Wikipedia)財団が運営する多言語オンライン百科事典。無料で見るができるが、項目によっては必ずしも正確でない場合がある。

オーセンティック (authentic) 外国語教育では、自然な話し言葉・書き言葉の特質をもつ場合に使われる。教育において学習者のレベルによって語彙や文法等に制約が必要な場合、**authenticity** (自然さ) と **teachability (learnability)** (教えやすさ・学びやすさ) のどちらを優先させるかという問題が生じることがある。

オーラル・アプローチ (oral approach) **audio-lingual method** の別称で、行動主義学習理論と構造主義言語理論を中心とする言語習得理論の一つ。

音の同化 ある音が、語または文中において、それに隣接または近接する他の音に影響されて、それに類似した音やそれと同一の音に置き換えられる現象 (例 : **newspaper** [vɒʊə:σπε̃ ι̃πE]では、**news** [vɒʊə:ζπε̃ ι̃πE]の[ζ]が後続の無声音[π]に影響されて[σ]になるような場合。ただしアメリカ英語では[v(ɸ)ʊəζπε̃ ι̃πE]が普通。また、**question** のように[-τɸ-]が[-τΣ-]Ωになる同化もある)。

音の連結 英語の場合は、通常、linking といい、母音接続を避けるための linking ‘r’（例：after all [ɑ̃(:)φτΕρχə:λ]、[Ã φτΕρχə:λ]の[p]）や、India office [IvδiρΕχ̃ φiσ]のような intrusive ‘r’ などがある。

学習スタイル (learning style) 学習活動または学習過程に認められる個人固有の特徴で、外から観察できるものだけでなく、内面的なものもあり、学習の個人差を質的にとらえる場合に重要である。

学習ストラテジー (learning strategies) 外国語教育では、学習している言語の意味、語用、文法などを理解するために意図的あるいは半ば意図的な行動を意味する。

観点別評価 日本では生徒の成績評価方法として、教科の成績を数値化して示す「評定」と「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、「表現の能力」、「理解の能力」、「言語や文化についての知識・理解」（英語科の場合）のように 4 つの観点を基本として示す「観点別学習状況」という 2 つの評価法を採用している。

言語材料 学習指導要領でいう言語材料は、「音声」、「文字及び符号」、「語、連語及び慣用表現」、「文法事項」で構成されている。

キーワードのマップ 文章のキーワード相互の関係を図式化した場合の構造図

コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング (communicative language teaching)

言語教育の目標はコミュニケーション能力であることを強調する指導法。

実践的コミュニケーション 平成 10 年版の学習指導要領の目標には「実践的」がついていたが、平成 20 年版（小・中）、平成 22 年版（高）では、コミュニケーションは本来、実践的なものであるから削除された。

シャドーイング (shadowing) ネイティブの音声（肉声あるいは録音）を聞きながら、それを影（shadow）のように後から追いかけて口に出し、同じように発音する英語学習法で、もともとは通訳を目指す人々がよく使う訓練法。

情意フィルター (affective filter) (Krashen, 1984)の *The Natural Approach* で提唱された Affective Filter Hypothesis（情意フィルター仮説）によれば、言語習得は学習者の情意に影響され、不安、自信喪失のような負の感情は言語習得を妨げるというもの。

スキット (skit) 語彙、文法、機能(function)等を含んでいる新教材導入用寸劇

スキミング (skimming) 速読の一種で段落や文章の大意を把握するような読み方。scanning と対比される。

スキヤニング (scanning) 速読の一種で文章の中から特定の情報を探すような読み方。skimming と対比される。

スキヤフォルディング (scaffolding) 一般的には、生徒の学力を超えたタスクを行わせるとき生徒に与える支援であるが、言語学習においては適切かつ社会的・協働的な枠組みによって成果が左右されるという心理学者 Bruner の理論に基づく。

ストーリーテリング (storytelling) 学習手段として長い間、生徒の学習効果や情緒安定に役だつと考えられて、あらゆる年齢層に対応できることから、個々の生徒の表現性や思考・感情を正確・明瞭に伝える能力を養う目的で用いられ、近年、日本では小学校の教

育に応用されることも多い。

生徒のデータベース 生徒の定期試験、小テスト、授業観察結果など、生徒に関するデータを保存・管理するデータベース。

タスクベースト・アプローチ (task-based approach) 対人間のコミュニケーション・やりとりを通して課題(task)解決を求める指導法。Task-based language teaching とも言う。

ディクトグロス (dictogloss) 長めのまとまった文章を教師が普通の速さで数回読み、学習者が聞き取ったことを持ち寄り、グループで協力してテキストを復元させる活動。

トピックセンテンス (topic sentence) 段落のトピック (話題・主題) を表す文。

ニューズレター (newsletter) クラブや組織の活動・行事などを部 (会) 員に伝えるための定期的印刷物。

ビンゴ・ゲーム 司会者 (caller、授業では教師) が選んだ数字と同じビンゴ板上の数字を消していき、早く縦、横、または斜めに 5 つの数字を並べた人が勝つゲーム。英語教育では語彙学習の方法として利用する教師が多い。

ブレインストーミング (brainstorming) 各人が自由に発想を出し合う会議技術;1939 年、A. F. Osborne が米国の広告会社で初めて試みた。

マザーグース (Mother Goose) 英国古来のわらべ歌集。チャンツ (chants)やライム(rime / rhyme<単語または詩行の特に末尾部分の音が同一で、その直前の子音は異なること。例: ran-man, sword-cord など>)の練習に使われる。

マインドマップ マインドマップは、英国の教育者 Tony Buzan が開発した自然な形で脳の力を引き出す思考技術で、中心テーマから放射状にノートを取りながら関連要素を追加していくもので、日本国内では商標にもなっている。

ルーティン化 (routinization) 授業活動の手順や約束事に慣れさせて、学習者が活動内容に集中できるようにすること。

ロールプレイ (roleplay) 語学教育では、寸劇用のスキットの形を借りて、その登場人物に求められる言語行動 (すなわち役割<roles>) を行うことが多い。roleplaying ともいう。

.....

『言語教育履修生のためのポートフォリオ』

Japanese Portfolio for Student / Novice Teachers of Languages

発行日: 2012年2月25日

編集発行人: JACET 教育問題研究会 (代表: 久村研)

(編集担当: 高木亜希子)

URL: <http://www.waseda.jp/assoc-jacetenedu/>

- ・ 本ポートフォリオは、平成22 年度ー平成24 年度文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究課題番号22320112 (研究代表: 神保尚武) の研究補助費を受けて作成したものである。
- ・ 本書の一部あるいは全部を引用または複写複製する場合には、本書より引用したことをお断り下さい。